TOHOKU UNIVERSITY

# Volunteer Seminar Journal 2012 Summer

## ボランティア支援室の”いま”を伝える

## CONTENTS


スタートアップフェア 02

ボランティアツアーレポート 02-03

- GW ツアー
- 東北コットンプロジェクト
- 鎮守の森復活プロジェクト

ボランティア団体紹介 04-07

東北大学東日本大震災
学生ボランティア支援室とは 07

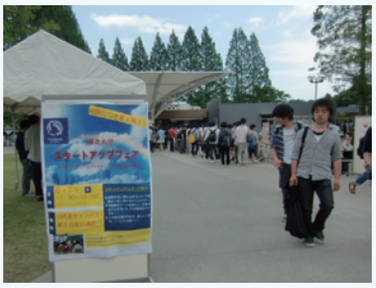
担当教員からのメッセージ 08

Start Up Fair

Volunteer Tour Report

# スタートアップフェア

平成24年4月に、東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室は10日から26日まで、計6回の「震災ボランティアスタートアップフェア」を開催しました。
本イベントは、個別にボランティア関係者の説明を聞くことのできる機会を設けるために企画され、この期間中の毎週火曜日は学外のボランティア関連団体、毎週木曜日は学内のボランティア団体がブースを出展しました。毎回20人から25人ほどの学生が参加し、団体の活動状況やボランティア活動の実際について団体の方々から熱心に話を聞く姿がみられました。



また6月7日には、川内北厚生会館前にてスタートアップフェア第2弾を開催しました。第2弾企画は、より気軽に話を聞くことができることを目標とし、ボランティア団体のブースを屋外に設置しました。キャンパス内を移動する多くの学生が立ち寄り、ボランティア活動の実際について話を聞く姿がみられました。

# ボランティアツアーレポート

## 東北コットンプロジェクト

東北コットンプロジェクト事務局主催

宮城県仙台市荒浜　2012/05/19

平成24年5月19日、東北コットンプロジェクト主催の種まきが開催されました。同プロジェクトは、東日本大震災に伴う津波の被害によって稲作ができなかった農地においてコットンを栽培し、農家の支援や雇用を創出するとともに、被災地で生まれたコットン製品を使用することで消費者が被災地を応援できる環境をつくることを目的とした活動です。
12日に先立って行われた名取地区の種まきに続き、19日は荒浜地区で種まきが行われました。当日は300人の参加者が県の内外から集まり、本学ではボランティア支援室を通じて19人の学生が種まきに参加し、無事に終了しました。
以下に、コットンプロジェクトに参加した学生の声を掲載します。

### 参加した学生の声

コットンプロジェクトについては昨年から知っていましたが、活動に参加したのは今回の種まきが初めてでした。仙台内外からたくさんの人が集まったため、当日の種まきはあっという間に終わりました。あれだけの人数のボランティアを受け入れてくださった現地の方々、関係者の方々は大変な苦労をなさったことと思います。私は参加させていただいたことにただ感謝するばかりです。
あの日お裾分けしていただいた綿の種を、翌日自宅の畑に撒きました。20センチほどに育った綿の苗を見るたびに、代表の方のおっしゃった言葉を思い出します。「この種を自宅で撒いて、『そろそろ雑草とりの時期かな、また行こうかな』『花が咲いたころだから見に行こう』と思い出してほしい」。
秋には綿を収穫し、あの畑まで持っていこうと思います。同じ種から育った綿を通して、コットンプロジェクトの畑とつながっている。私はそう感じています。

文学部三年　渡辺もも

# GWツアー

平成24年5月、東北大学東日本大震災ボランティア支援室はゴールデンウィーク企画として、学外団体の協力のもと、4日に「石巻スタディーツアー」5日に「沿岸部がれき処理ボランティアツアー」を実施しました。

「石巻スタディーツアー」は、山形大学および東北芸術工科大学の学生が中心の『S.T.A.R.T.』が実施している企画で、地震及び津波により大きな被害を受けた石巻市の地元の方々からお話を伺い、そのお話をもとに学生がディスカッションを行うという内容でした。また「沿岸部がれき処理ボランティアツアー」は、『スマイルエンジン山形』が実施している企画で、七ヶ浜地区の未処分の瓦礫を撤去するという内容でした。

4日のスタディーツアーには23人、5日の瓦礫撤去ツアーには41人の参加申し込みがあるなど、学内からの反響が大きかったツアーでした。

**石巻スタディーツアー タイムテーブル**

| | |
|---|---|
| 8:00 | 川内キャンパス出発 |
| 9:30 | 日和山公園 |
| 10:10 | 門脇地区 |
| 10:35 | 石巻漁港 |
| 11:00 | いしのまキッチン（昼食） |
| 13:00 | 街歩き |
| 14:10 | ディスカッション |
| 16:00 | 自由時間 |
| 17:30 | 川内キャンパスへ出発 |

石巻スタディツアー①

石巻スタディツアー②

スタディツアーにおける
ディスカッションの様子

## 参加した学生の声

今回訪れた七ヶ浜では、大きな瓦礫は片付けられていたものの、春を迎えても作付けされていない田畑を見て、復興はまさにこれからなのだと感じました。

活動自体は、私のような初心者でも取り組みやすいものでした。ただ、やはり瓦礫を運ぶ作業はかなりの体力が必要でした。今回のツアーで集めた瓦礫は、仮の場所に置いておくことしかできないのだそうです。それは処分場の能力が追い付いていないためなのだ、という話を聴き、自分の住んでいる家から20㎞と離れていないこの場所で起きている事態の深刻さを実感しました。

広域処理の問題がしばしばニュースで取り上げられていますが、瓦礫処理をスムーズに進めるために、日本各地の人々が瓦礫処理に協力できる仕組みができることを願います。ツアーを通じて、私自身が被災地にある瓦礫を身近な問題として考えられるようになりました。このきっかけに感謝したいと思います。 工学部一年　女子

**沿岸部がれき処理 ボランティアツアー**

| | |
|---|---|
| 8:00 | 七ヶ浜へ出発 |
| 8:45 | 七ヶ浜に到着 |
| 9:00 | がれき除去開始 |
| 12:00 | 昼食 |
| 14:30 | 作業終了 |
| 15:00 | 川内キャンパスへ出発 |
| 15:45 | 川内キャンパス到着 |
| 16:00 | ディスカッション |
| 17:00 | ディスカッション終了 |

学生200人でボランティア体験バスツアー!!

# 鎮守の森 復活プロジェクト

一般社団法人ワカツク主催

宮城県亘理郡山元町　2012/06/24

平成24年6月24日、日本財団学生ボランティアセンター、一般社団法人ワカツク主催・東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室共催のもと、山元町植樹体験ボランティアツアーが開催されました。

同ツアーは、震災によって失われた鎮守の森を再生させることを通じ、地域コミュニティーの復活をめざす「鎮守の森プロジェクト」の一環として開催され、学生および地元住民が共同して植樹を行いました。

学内からは57人の学生が参加し、無事に終了しました。

# ボランティア団体紹介

このページでは東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室に登録されているボランティア団体の一部を紹介をします。ここに登録されている団体は、ボランティア支援室の審査を通過した団体であるため、学生の皆さんは安心して活動に参加いただけます。なお、ボランティア支援室では、各登録団体に対し、ボランティア情報の提供や相談の受付などを行なっております。

## 東北学生震災復興支援団体　All for Tohoku

東北学生震災復興支援団体All for Tohoku（A4T）は、震災後に各出身地に避難した東北大生が中心となって、全国各地における街頭募金活動を目的に結成された団体です。メンバーが仙台に戻ってからは、東北復興の未来を担う子どもたちに目を向け、現在までに、被災地の小学生を対象としたスポーツイベントの企画運営を行ってきました。
主に津波被害により放課後の居場所を失ってしまった小学生や、放射線の影響で思うように外遊びができない小学生に対して、屋内で気軽に楽しめるフットサル大会A4T CUPを定期的に開催しています。

**一言メッセージ** A4T は今後のイベント開催に向けて一緒に活動してくれる仲間を随時募集しています！東北に恩返しをしたいと思っている方、実際に被災地で活動してみたい方、子どもが好きな方、自分には何が出来るか分からないけど何かやってみたいという方、大歓迎です。特に必要な知識はありません。どのタイミングからでも参加して頂けます。
団体HP に過去のA4T CUP の様子を掲載していますので、ご覧になって頂ければと思います。

**主な活動場所**

定期ミーティング：仙台市内
2011年度A4T CUP 開催地：仙台市・会津若松市・福島市

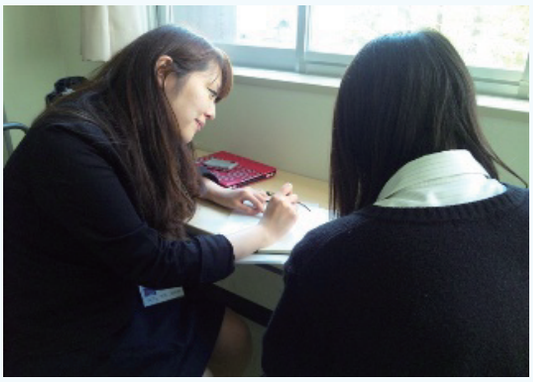
**代表者・担当者名**

代表：石田啓之（東北大学医学部医学科4 年）
担当：高田静香（東北大学教育学部4 年）

**お問い合わせ先**

E-mail: all4tohoku@gmail.com
HP: http://a4t.depty.org/

## 一般財団法人　学習能力開発財団



一般財団法人　学習能力開発財団では、東日本大震災で遺児、孤児になった子どもたちへの無料学習支援、心のケアをマンツーマンで（1対1スタイル）行っています。
常に、支援を受けるこどもたち一人ひとりの心にしっかり寄り添いピッタリ合う支援を行っております。また、発達障害のあるお子さまの学習を支援するという取り組みも16年前から行っております。

**一言メッセージ** 一般財団法人　学習能力開発財団に参加しているボランティアの方は東北大学の方を中心に、現職の教員、塾講師などのプロの方など様々なスキルのある方々です。みんなで学び合いながら学習支援を行っております。
また、遺児支援のためのグリーフケア研修や、発達障がい児支援における様々な専門的な研修を受けていただくことが可能です。授業についても、教務のスタッフ及び研究員が進め方や、配慮点などについてしっかり事前打ち合わせを行いますのでご安心ください。交通費は全額支給させていただきます。私たちの活動に少しでも興味を持って頂けましたら、まずはお気軽にご連絡下さい。

**主な活動場所**

仙台市内、近郊から、沿岸部にかけて。
青葉区、泉区、太白区、若林、宮城野区、名取市、岩沼市、石巻、桃生郡の遺児、孤児のお子さまのご自宅

**代表者・担当者名**

代表　畠山　明

**お問い合わせ先**

0120-001-296
主任研究員　鈴木 由美 / suzuki@lead.or.jp

# 特定非営利活動法人 NPO カタリバ

「新しい町を作るために、僕たちは今、勉強する」
東日本大震災で特に被害の大きかった宮城県女川町と岩手県大槌町では、町の8割がなくなり、町民の1割が亡くなりました。
NPOカタリバは、昨年7月に女川町で被災地の子どものための放課後コラボ・スクール「女川向学館」を立ち上げ、12月には大槌町で「大槌臨学舎」を立ち上げました。
現在、2つのコラボ・スクールは子どもたちにとって、「なくてはならない」存在になっています。そこで暮らす子どもたちは一年が経過しても、十分な学習環境を確保できていません。そんな中でも、自分の目標や将来の夢を持ちながら、未来の自分たちの町を考え、勉強している子どもたちがたくさんいます。
コラボ・スクールは町の将来を担う子どもたちへの教育を通して、町の復興に参加していきます。具体的な活動としては、小中学生への指導（女川）や中高生への指導（大槌）などを行なっています。

**一言メッセージ** 「新しい町づくりに一緒に参加しませんか？私たちは大学生の力に期待しています」
NPOカタリバは10年以上前から、大学生スタッフが中心に高校を訪問。8万人以上の高校生の背中を押してきました。だからこそ、大学生の力の大きさを知っています。
・「子どもが好き」という方　・将来教員になろうと考えている方　・塾講師や家庭教師の経験を活かしたい方
学習指導経験のない方でも謙虚に成長したいという思いがあれば十分です。
子どもたちに勉強を通して、わかる喜びを伝えること。少し年上の先輩であるあなたとの出会いが、女川町や大槌町の子どもたちの未来をつくるかもしれない。生徒の成長のため、自分の成長のため、コラボスクールを私たちと一緒に創っていただける方を募集します。

**主な活動場所**
宮城県牡鹿郡女川町
岩手県上閉伊郡大槌町

**代表者・担当者名**
担当者：金森俊一

**お問い合わせ先**
090-6146-3726（金森携帯）
メール：vo-tohoku@ml.katariba.net
申込みフォーム：http://www.collabo-school.net/?page_id=1318

# こども☆ひかりプロジェクト

2011年3月11日、東北での大震災の日を怖い思いをしながら過ごし、今もなお大きな不安の中で、それでも懸命に成長する子どもたち。そんな今を生きる子どもたちのために全国のミュージアムが集まりました。このプロジェクトは自然、科学、歴史、美術・・・などそれぞれのミュージアムの知恵と経験を生かし、現地の人たちとコラボレーションしながら、被災地でこどもたちのためにさまざまなワークショップや出前授業などを展開するというものです。子どもたちの心に小さな明かりが灯り、やがて彼ら自身が、未来にむけての大きな希望の光となってくれればと願い、この活動は２０２２年まで継続します。

**一言メッセージ** 小さな子どもたちが、あの怖かっただろう地震での苦しみや悲しみから立ち上がろうとするとき、ささやかでも誰かが応援していることを伝えたい。いっしょに歩きたい。そして子どもたちが『夢』『希望』を安心して抱ける、勇気をプレゼントしたい。日本中のミュージアムが　大きく子どもたちの可能性を引き出してくれる。地域で生きる子どもたちがミュージアムからのエネルギーで元気づき、まわりの大人たちもともに勇気がわいてくるそんなプロジェクト。まずは大学生のみなさん、なにかやってみよう！！と思ったら本物の学芸員や研究員たちと始めましょう♪
2012年6月9日。仙台市科学館にて「こども☆ひかりフェスティバル」を開催しました。
8500名を超える参加者でたいへん盛り上がりました。　次は児童館へGO！！　「こどもひかり」で検索ください＾＾

**主な活動場所**
全国。おもに被災地の保育園・幼稚園・児童館、小学校や避難所など。

**代表者・担当者名**
清水　文美（しみず　あやみ）

**お問い合わせ先**
090-9119-2005　runrunplaza@yahoo.co.jp
事務局：兵庫県三田市弥生が丘6丁目　兵庫県立人と自然の博物館

## NPO法人　パルシック

パルシックは、地球の各地で暮らす人と人が国家の壁を越えて助けあい、支えあい、人間的で対等な関係を築くことを目指し活動するNGOです。現在は東ティモール、スリランカ、マレーシアでプロジェクトやフェアトレードを行っています。
また、2011年3月末より、東日本大震災復興支援を開始しました。最初期の活動は、2011年3月から5月までの緊急支援活動「御用聞き活動」。支援の届きづらい避難所に物資や食事の提供を行いました。2つめは2011年7月～2012年3月までの在宅被災者支援「おちゃっこ活動」。被災民家の1階をボランティアの手で修繕し、コミュニティカフェを開設し、在宅被災者の方々にほっとできる場所を提供してきました。3つめは漁業支援で、2011年10月から現在まで続いております。は、漁業・農業の生業支援、高台集団移転や郷土芸能の保存の支援などを行っています。漁業支援では集落ごとにワカメの作業場を設置し、十三浜ワカメの種付け、刈りとりの時期にはボランティアを派遣しました。現在は、仮設にっこりサンパーク団地の住民の方たちと畑作業に取り組んでいます。仮設団地のすぐ近くの中学校の畑の一部を借りて野菜作りをしたり、ボランティアの力を借りて、津波の被害を受けた近隣の畑のがれき拾いや草取りをして畑を再生する活動をしたりしています。コラボ・スクールは町の将来を担う子どもたちへの教育を通して、町の復興に参加していきます。具体的な活動としては、小中学生への指導（女川）や中高生への指導（大槌）などを行なっています。

**一言メッセージ** パルシックでは、継続して被災者の復興の取り組みに寄り添いつつ、情報を発信し、ボランティアの派遣を行いたい、と考えています。現在も石巻市北上町十三浜地域でのボランティア募集中です。詳細はパルシックのホームページをご覧ください。
http://www.parcic.org

**主な活動場所**
石巻市北上町十三浜地域

**お問い合わせ先**
090-8353-2907（代表）
touhoku@parcic.org

**代表者・担当者名**
西村陽子（石巻事務所代表）

## NPOマザーリンク・ジャパン

マザーリンク・ジャパンは、子育て支援や少子化対策、地域ネットワークの再生等の活動を通して、母と子が安心して暮らせるより良い社会の実現に寄与することを目的に、震災後活動を始めた団体です。
子どもたちの未来のためには、被災地の復興は無視できない課題と捉えています。復興には地域ネットワークの再生が重要な役割を果たします。地域ネットワークの再生を支援することで、被災者の孤独を防ぎ、「孤独死」だけでなく、「夫婦間DV」「孤独な育児からの児童虐待」等も防ぎたいと考えています。
これまでの活動については、http://www.motherlink-japan.org/をご覧ください。
『一緒にごはん！プロジェクト』は仮設住宅でみんなで一緒に食事をとることを習慣にすることで、入居者同士の心の距離をちぢめ、うつや孤独死を防ごうという活動です。
人は一緒にごはんを食べると、心の距離がちぢまります。『一緒にごはん！プロジェクト』は、「自分が食べるものは自分で持ち寄る」がルールです。だから、いつでも、誰でも、簡単に始められます。集会所ではなくても、「あなたのうち」でもいいのです。
【ルールは三つだけ】
・仮設住宅の集会所で週に一度みんなでごはんを食べる日を決める
・自分で食べる物は自分で持ち寄る
・なるべく独り暮らしの人に声を掛ける

**一言メッセージ** “食べる”ということは“生きる”ということ。
“一緒にごはんを食べる”ということは、“一緒に生きる”ということ。
『一緒にごはん！プロジェクト』を広めてくれる“仲間”を大募集！
夏休みを使って、一緒に活動しませんか？

**主な活動場所**
宮城県、岩手県、福島県の仮設住宅

**お問い合わせ先**
info@motherlink-japan.org
070-6612-1664(PHS)
080-1388-3662(携帯)

**代表者・担当者名**
寝占理絵（ねじめりえ）

## ReRoots

震災復興・地域支援サークル ReRoots（リルーツ）は、仙台市若林区にあるボランティアハウスを拠点に、津波で被災した農地の復旧・復興に取り組んでいます。震災直後に、市内の川内コミュニティーセンターに避難した地域住民・学生の、炊き出しや物資の配給のお手伝いがReRootsの始まりです。その後、津波被災地で家屋の泥だしなど復旧ボランティアをする中で、様々な問題を発見し、自分たちで団体を立ち上げ支援を始めました。
去年の4月の設立から、引き続き、若林区の被災した農家の方々や地域の方々の立場に立ち、「復旧から復興、そして地域おこしへ」をコンセプトに中長期的に取り組んでいく構想です。
主な活動は、農地の復旧作業（ガレキの除去、雑草抜きなど）、被災農家支援として農作業のお手伝い、景観形成としてひまわり畑作り、地域の方々とのイベント開催などです。全国からボランティアの方を募り、月に2000人以上の参加者とボランティア活動を行なっています。

**一言メッセージ** ReRootsでは、平日・休日、年齢問わず参加者を募集し、毎日ボランティア活動を行っています。半日だけの参加も歓迎です。参加の際は、事前にボランティア保険（天災型）へご加入の上、朝8:30～9:00にボランティアハウスまでお越しください。
持ち物は、ボランティア保険への加入が確認できるもの、長袖長ズボンの汚れてもいい服装、長靴、軍手、ゴム手袋、昼食、飲み物、合羽（雨天時のため）です。長靴やゴム手袋は貸し出しも可能です。
ブログ、Twitterは毎日更新しています。ご参照ください。

**主な活動場所**
若林ボランティアハウスを拠点に、仙台市若林区沿岸部で活動。

**代表者・担当者名**
代表：広瀬剛史
担当：平松希望（東北大学農学部2年）

**お問い合わせ先**
ReRoots(リルーツ)若林ボランティアハウス
住所：宮城県仙台市若林区荒井字遠藤43－1

## 東北大学東日本大震災 学生ボランティア支援室とは

東北大学では、東日本大震災によって被害を受けた地域の復興のために、ボランティア活動を行う学生を支援する「東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室」（通称「支援室」）を設置しています。
支援室では、登録団体として認められた団体に対して、以下の支援を行います。

- 学生へのボランティア情報の提供
- ボランティア活動に関する物品等の支援

また、本学の学生に対して、以下の支援を行います

- ボランティア活動を希望する学生を対象としたイベントやボランティアツアーの企画
- ボランティア活動に関する各種の相談やケア

**ホームページが出来ました！**

支援室企画のイベントやボランティアツアーのお知らせ、登録団体のボランティア募集情報、これまでの活動の様子などがご覧になれます。ぜひ、ご利用ください！

**https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/** ボランティア支援室 Web サイト

# 担当教員からのメッセージ

## 大学とボランティア

### ～地域のために、私たち自身のために～

東北大学大学院法学研究科准教授（ボランティア支援室担当）　米村 滋人

皆さんは、「ボランティア」と聞いてどういうイメージを持つでしょうか。ボランティアと言っても内容はさまざまですし、人によって感じ方が違うこともありえます。何となく面倒くさそうだ、と思う人もいるかもしれません。

私はもともと内科医で、各地の病院で患者さんの治療に携わってきました。医者になるには、難関の医学部入試を突破し、大学で６年間勉強し、医師国家試験に合格しなければなりませんが、その後も研修医として最低２年間は実地の勉強が必要です。英語の論文を読んだり学会で発表することも、医者には常に求められます。ところが、こんなに勉強しても、実際の診療では知識が役に立たないことがあります。研修医になったばかりの新米の医者の多くは、それまで必死に勉強してきたことが現場で役に立たないことを知り、愕然とするのです。なぜそうなるのでしょうか。言うまでもなく、患者さんは生身の人間です。それぞれの人生があり、考え方があります。医者の判断や治療は、場合によってその人や家族の未来を変える可能性があり、医学の知識はもちろん必要ですがそれだけで答えが出るわけではありません。

これは、実は医学に限ったことではありません。東北大学は日本で屈指の学問水準を誇る大学で、どの学部も最先端の学問を教えています。しかし、専門的な知識を持つ大学教授でも、それを社会の中でどのように生かすべきか、明快な答えを持っているわけではありません。原子力工学の専門家が原子力発電所のリスクを制御しきれなかったように、専門家だけが判断することは逆に危険な場合もあります。本当の意味で知識を「生かす」ためには、それを使う一般の人々が何を求め、どのように考えているかを知る必要があるのです。

大学では、毎日授業が行われます。それは知識を伝授する場としては重要なものです。しかし同時に、大学は常に社会との接点を保たなければなりません。専門的な知識がどのように社会の中で生かされるかを知ることは、新しいことを学ぶ動機づけになると同時に、学ぶ内容や方向性を考えるきっかけにもなります。そして大学は、学生の皆さんが実際の社会に触れ、さまざまな形で知識を生かす場も提供しています。私たちボランティア支援室の活動は、そのようなものです。

昨年発生した東日本大震災は、多くの人々から幸福と安心を奪いました。東北地方では、今なお大勢の人が困難を抱えています。しかし、現在の被災地の状況は、過疎、高齢化、失業、農林漁業の構造的問題など複雑な背景を有し、震災ボランティアは「かわいそうな人を助ける」というようなイメージとは全く異なるものです。難しい状況をどう克服するか、多くの人が集まって考え、議論しあい、よりよい社会を再建すべく努力しなければなりません。大学の学生や教職員にできること、期待されていることはいくらでもあります。東北の未来を考えると同時に、私たち自身のあり方を見つめ直すためにも、ボランティアという「場」を大学生活の中で積極的に活用して頂くよう、皆さんの意欲ある行動に期待します。

（よねむら しげと　2000年東京大学医学部卒。一般病院勤務を経て2005年から東北大学大学院法学研究科准教授。2011年から東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室の運営に従事。）

**Volunteer Seminar Journal Summer**

2012年7月30日発行
発行者
東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室
教育・学生支援部学生支援課内
〒980-8576　仙台市青葉区川内 41
電話 022 (795) 7818

©2012 Tohoku University Printed in Japan